

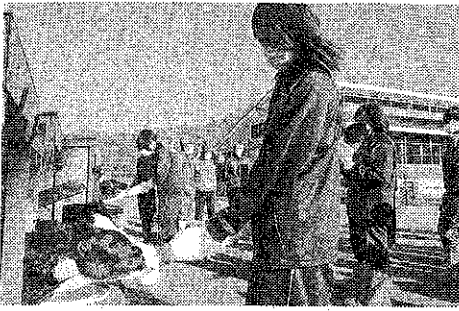
高校生が仕事体験

牧場で子牛に哺乳

白糠高

【白糠】白糠高校（田村

信明校長）の1年生22人が「産業社会と人間」の授業で、町内の酪農家4戸による共同経営牧場M&S（澁谷博代表）を見学した。同社は年間3500〜3600頭の牛乳を生産している



子牛にミルクを与える生徒
（白糠町役場提供）

町内最大規模のメガファームで、搾乳ロボットや餌寄せ作業ロボットなどを備えている。

10月15日に実施。搾乳エリアでは澁谷代表が「搾乳ロボットを6台導入したことで、24時間搾乳できている。人間の労働力は減っても生産量は増えている」と説明。生徒はロボット1台の購入費などについて積極的に質問したほか、子牛の哺乳体験も行った。

武内萌花さんは「牛1頭ずつの搾乳量をロボットが管理していることに驚いた」。塚田翔太さんは「ふん尿が機械で固形と液体に分離され、畑の肥料や牛の敷きわらになっているとは知らなかった。牛についてもっと知りたくなった」と話していた。